

聖望学園中学校 3年 ^{ちしま}千島 ^{りこ}璃子

「やってみよう」

私は発表などの人の前で話すことが苦手です。練習は完璧でも、いざ本番になると緊張し、失敗してしまうということを何度も経験してきました。しかし、私は代表として話すことが仕事の生徒会長になりました。なぜあえてそれを選んだのか、理由は「克服したい」という一心でした。小学生の頃は班長やリーダーといった組織の代表になること、沢山の新たなものにチャレンジしていくことが好きでした。そして発表などもあまり苦手ではありませんでした。緊張知らずなぐらいで、よく「本番に強い子」と言われ、嬉しかった記憶があります。しかし、だんだんと大きくなり、小学校高学年、中学生になると緊張することや失敗することが増え、発表に対して苦手意識を持つようになりました。人の前で話すことが「嫌い」になったのではなく、「失敗したら…」という怖さで臆病になってしまったことが悔しかったです。しかし、このことを母に相談した時に言われた「失敗するかしないかは誰にもわからないよ」というこの当たり前の言葉が、私の背中を押してくれたような気がしました。「苦手を克服したい」「失敗しても良い、とにかくやってみよう、チャレンジしてみよう」そう思えた時、先生から生徒会長立候補のお話をいただきました。嬉しい気持ちもある反面、「私なんかで良いのかな」という不安もありましたが「やってみないとわからない！」そう思い、立候補することを決め生徒会長になりました。このような経験から、私はチャレンジしていくことの大切さを改めて実感しました。正直、今の私は発表が得意かと言われると、まだ苦手意識の方が強いです。緊張もし、失敗してしまうこともあります。けれども、生徒会長になったことを後悔はしていません。むしろなってよかったと思っています。完璧に克服はできずとも、「私ならきっと大丈夫」と思えるような自信がついたからです。

みなさんはトーマス・エジソンという人物を知っているでしょうか。「発明王」とも呼ばれた彼が残した言葉の中にはこのようなものがあります。「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないことである。」「私は失敗したことがない。ただ、一万通りのうまくいかない方法を発見しただけだ。」という言葉です。国語的に考えると成功の反対は失敗ですが、私はエジソンが失敗は成功への過程で起こるものであるため、挑戦しないということ以上に恐れる必要はないことを言っているのだと思いました。さらに、発明をしていく上での失敗をただうまくいかなかったと考えるのではなく、うまくいかない方法を発見したと言っているのです。私はこれらの言葉にとっても共感しました。何もしないということは苦手意識が強くなっていくだけ、苦手なことにチャレンジしていく際の失敗は、落ちこんだりするのではなく「この方法だと失敗してしまう」という発見をしたと考え方を変えるだけでも、「やってみよう」という気持ちがでてくると身に沁みて感じたからです。

このように私は「苦手を克服したい」と思った時には、失敗や成功といった結果を気にせずにまずはやってみる、沢山のことにチャレンジをするということが大切だと考えています。苦手意識はすぐにはなくなるものではありません。そのため、克服したいという一心で必死に頑張ろうと沢山のことを一気に詰め込まなくても良いのです。考え方を今までと少し変えてみたり、変えてみようかなと思ったりするだけでも大丈夫。初めてのことにチャレンジしてみようと思い誰かに相談してみたり、思い切ってやってみたり、と徐々に徐々に時間をかけて色々なことに挑戦してみてください。あの時「やってよかった」と思える未来がきっとくるはずです。